

# 基礎研 レポート

## 身近に潜む子どもの事故(3)

-日米ともに0歳は窒息に注意、15歳以上では日常生活で曝露可能性のある有害物質による中毒やレジャーでの溺死に要注意-

生活研究部 研究員 乾 愛  
(03)3512-1847 [m-inui@nli-research.co.jp](mailto:m-inui@nli-research.co.jp)

### 1—はじめに

子どもの死亡原因の上位を占める「不慮の事故」は、子どもの発達段階が大きな影響を与える。子どもの事故死亡リスクを上げるも下げるも、その環境を整える保護者に責務が生じると言って差し支えない。子どもの発達段階を知識として習得し、その予防策を講じることは重要な保護者の役目なのである。

そこで、保護者や子どもを取り巻く大人たちに事故予防の重要性を認識してもらうことを目的に、レポート3部作を通して、子どもの不慮の事故における特徴を概観した。

[第1稿](#)では<sup>1</sup>、厚生労働省の令和3年人口動態統計データを用いて分析した結果、「不慮の事故」による死亡者数は長期的には大幅な減少が認められるものの、子どもの死因別順位では、0歳-19歳の子どもが含まれる年齢層全てにおいて「不慮の事故」が4位以内に入ることが明らかになった。

また、[第2稿](#)では<sup>2</sup>、CDCの傷病レポートから米国における子どもの不慮の事故の死因順位を分析した結果、日本同様、0歳では第5位、1歳-24歳の子どもの年齢が含まれる全ての階級において「不慮の事故」が第1位を占め、子どもの発達段階や、夏季ごろの行動範囲の拡大に伴うリスク増大との関連性が指摘される結果となった。

本稿では、子どもの不慮の事故の特徴をより詳細に捉えるために、(ICD-10に準拠した分類である)厚生労働省の人口動態統計から「日本の家庭における不慮の事故の死因別内訳」と、CDCの傷病レポートから「米国の家庭における不慮の事故の死因別内訳」を比較し、子どもの不慮の事故の特徴を分析する。

<sup>1</sup> 乾 愛 基礎研レポート「身近に潜む子どもの事故(1)」(2023年6月6日)

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75033?site=nli>

<sup>2</sup> 乾 愛 基礎研レポート「身近に潜む子どもの事故(2)」(2023年6月8日)

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75050?site=nli>

## 2—2022 年人口動態統計から捉える、日本の不慮の事故詳細

### 2-1 | 日本の家庭における「不慮の事故」では、0 歳が窒息、15 歳以上で溺死や中毒死が特徴的

まず、令和 3 年人口動態統計から、家庭における不慮の事故による死因別、年齢区分別の死亡者数を図表 1 へ示した。（\*主な死因と死因詳細項目の数は足し上げても合致しないことに留意）

その結果、家庭における不慮の事故での死亡者総数は、13,352 人であり、主要な死因別からみると、「不慮の溺死及び溺水」が 5,398 人と最も多く、その中でも「浴槽内での溺死及び溺水」が 4,997 人と最も多い結果が明らかとなった。次に、「その他の不慮の窒息」が 3,317 人で、その中でも「気道閉塞を生じた食物の誤嚥」が 2,360 人であった。そして、「転落・転倒・墜落」が 2,486 人と続き、その中でも「スリップ、つまづき及びよろめきによる同一平面上での転倒」が 1,521 人であった。

0 歳～24 歳の年齢区分でみると、死因別では、「その他の不慮の窒息」が 85 人と最も多く、次に、「不慮の溺死及び溺水」が 46 人、続いて「有害物質による不慮の中毒」が 36 人であった。

図表 1 - 1. 家庭における不慮の事故による死因別、年齢区分別死亡数（単位：人）

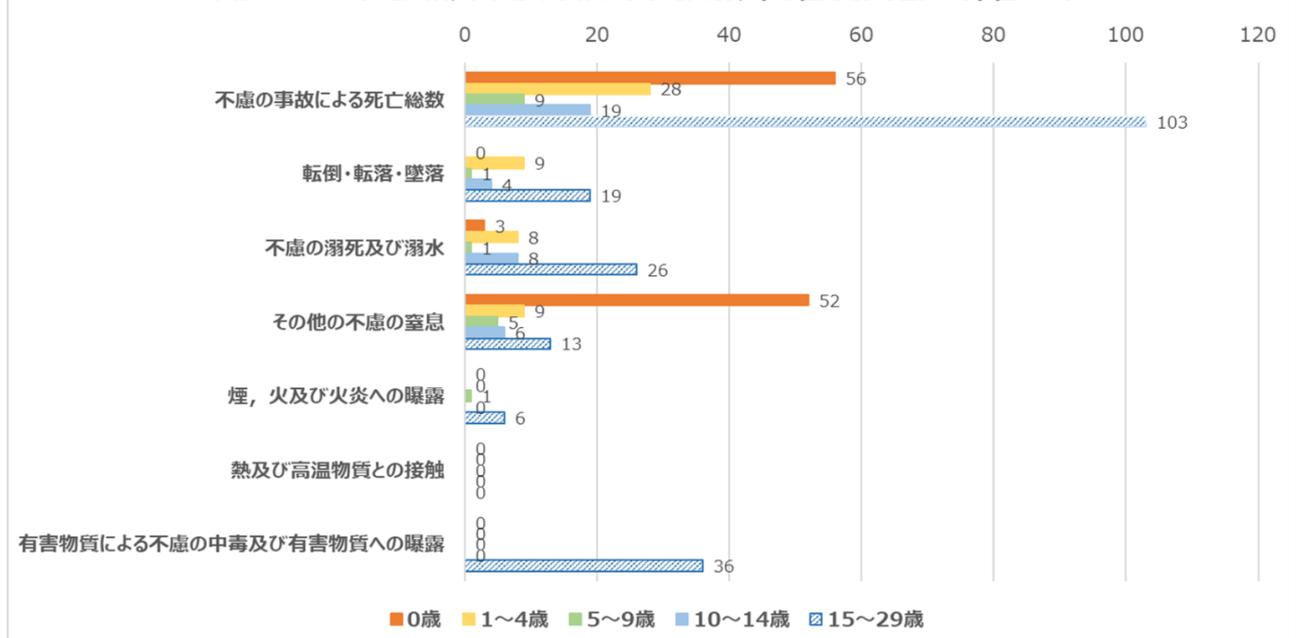
| 主な死因                   | 死因詳細項目                      | 0歳  | 1～4歳 | 5～9歳 | 10～14歳 | 15～29歳 | 30～44歳 | 45～64歳 | 65～79歳 | 80歳以上  | 総数     |
|------------------------|-----------------------------|-----|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 転倒・転落・墜落               |                             | 56  | 28   | 9    | 19     | 103    | 238    | 1165   | 4153   | 7570   | 13,352 |
|                        | スリップ、つまづき及びよろめきによる同一平面上での転倒 | -   | 9    | 1    | 4      | 19     | 25     | 244    | 724    | 1460   | 2,486  |
|                        | 階段及びステップからの転落及びその上での転倒      | -   | 1    | -    | 1      | 7      | 15     | 118    | 368    | 1011   | 1,521  |
| 不慮の溺死及び溺水              | 建物又は建造物からの転落                | -   | 8    | -    | 3      | 10     | 7      | 41     | 65     | 69     | 203    |
|                        | 浴槽内での溺死及び溺水                 | 3   | 8    | 1    | 8      | 26     | 36     | 262    | 1849   | 3205   | 5,398  |
|                        | 浴槽への転落による溺死及び溺水             | 3   | 6    | 1    | 8      | 23     | 34     | 243    | 1716   | 2963   | 4,997  |
| その他の不慮の窒息              |                             | -   | 1    | -    | -      | -      | -      | 2      | 11     | 20     | 34     |
|                        | 胃内容物の誤えんく嚥 <吸引>             | 52  | 9    | 5    | 6      | 13     | 51     | 273    | 916    | 1991   | 3,317  |
|                        | 気道閉塞を生じた食物の誤えんく嚥 <吸引>       | 19  | 1    | 2    | 2      | 5      | 20     | 56     | 126    | 276    | 507    |
|                        | 気道閉塞を生じたその他の物体の誤えんく嚥 <吸引>   | -   | 2    | 1    | -      | 3      | 15     | 177    | 670    | 1491   | 2,360  |
| 煙、火及び火炎への曝露            |                             | 2   | 3    | -    | -      | 2      | 5      | 18     | 63     | 145    | 238    |
|                        | 建物又は建造物内の管理されていない火への曝露      | -   | -    | 1    | -      | 6      | 27     | 133    | 245    | 306    | 728    |
| 熱及び高温物質との接触            | 夜着、その他の着衣及び衣服の発火又は溶解への曝露    | -   | -    | -    | -      | 6      | 22     | 124    | 212    | 258    | 630    |
|                        | 蛇口からの熱湯との接触                 | -   | -    | -    | -      | -      | 1      | 1      | 7      | 22     | 31     |
| 有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露 |                             | -   | -    | -    | -      | -      | -      | -      | 11     | 27     | 38     |
|                        | 蛇口からの熱湯との接触                 | -   | -    | -    | -      | -      | -      | -      | 10     | 26     | 36     |
|                        | その他のガス及び蒸気による不慮の中毒及び曝露      | -   | -    | -    | -      | 36     | 78     | 85     | 46     | 48     | 293    |
|                        | 農薬による不慮の中毒及び曝露              | -   | -    | -    | -      | 8      | 14     | 8      | 13     | 11     | 54     |
|                        |                             | -   | -    | -    | -      | -      | -      | 1      | 7      | 18     | 26     |
| 総数                     |                             | 135 | 76   | 23   | 51     | 268    | 590    | 3,009  | 11,389 | 21,133 | 36,704 |

出所) 令和3年人口動態統計「上巻 死亡 第5. 3 5表 家庭における主な不慮の事故による死因（三桁基本分類）別にみた年齢（特定階級）別死亡数及び百分率」より、死亡者数データを抽出し、筆者作成

注 1) 死亡者総数には、年齢不詳も含まれている。

注 2) 死因の内訳は主な項目のため、たしあげても総数にはならないことに留意。

図表 1 - 2. 家庭における不慮の事故による死因別、年齢区分別死亡数（単位：人）



また、家庭における不慮の事故での死因を、全体と0歳から29歳までの子どもの年齢を含む階級とで比較すると<sup>3</sup>、「窒息」や「溺死」についての死因が多いことは同様の傾向が認められるが、子どもの年齢層では、主な死因として「有害物質による中毒死」が上位にくる。

さらに、家庭における不慮の事故での死因を年齢区別にみると、0歳では「その他不慮の窒息」が52人と最も多く、1歳から4歳、5歳から9歳、10歳から14歳については死因のばらつきがあり、15歳以上29歳では「有害物質による中毒死」が36人と最も多い結果となっている。

0歳から15歳以上の年齢区分では、0歳児の窒息と15歳–29歳での有害物質による中毒死や溺死に留意する必要があることが分かる。

0歳児育児では、子どもの発育段階から短時間睡眠と頻回な授乳やおむつ交換対応などが続き、添い寝での窒息事例<sup>4</sup>や、抱っこでの圧迫窒息での死亡事例<sup>5</sup>が報道されている。

また、10歳代ではGWなどの長期休暇を中心に、レジャー施設での溺死事例<sup>6</sup>が相次いでおり、ゲートウェイドラッグや乱用に至りやすいのも10歳代であることから<sup>7</sup>、長期休暇前に不慮の事故を防ぐための教育と対策は重要となる。

### 3—2020年CDC統計レポートから捉える、米国の子どもにおける不慮の事故詳細

次に、CDCが公表する傷病レポートの統計データから、2020年米国における「不慮の事故（傷害）」についての内訳を子どもの年齢層が含まれる0歳から24歳階級区別に以下の図表2～6へ示した。

尚、CDCが用いる不慮の事故（傷害）の分類は、日本でも用いられている国際的な疾病分類ICD-10に基づくものであり、この疾病分類コードを厚生労働省が準拠した日本語表記で整理したものを、筆者が対照表として整理し、本稿レポートの最後に参照資料として添付する。

#### 3-1 | 2020年米国の0歳における不慮の事故内訳

2020年米国における0歳の不慮の事故（傷害）の内訳をみると、第1位は「Suffocation：その他の不慮の窒息」であり、1年間の死亡者数が1,024人（85.8%）であった。

次に、「MV Traffic：交通事故により受傷したオートバイ乗員やバス乗員」が72人（6.0%）、「Drowning：その他の溺死及び溺水」が34人（2.8%）であるが、0歳児の不慮の事故（傷害）において、不慮の窒息が8割強を占めることが特徴的であると言える。

図表1の日本の0歳児の不慮の事故における内訳においても窒息が最も死亡者数が多いことから、呼吸機能が未熟な0歳児を育児する保護者は、衣服や抱っこ紐による圧迫、柔らかい布団や unnecessary 玩具など、窒息の原因となりうる環境を排除する必要がある。

<sup>3</sup> 5歳以上は29歳までの年齢区分のため単純に子どものみの傾向として取り扱うことはできないことに留意

<sup>4</sup> NHKWB特集「添い乳で赤ちゃん窒息死相次ぐ、授乳に注意」（2021年7月2日）

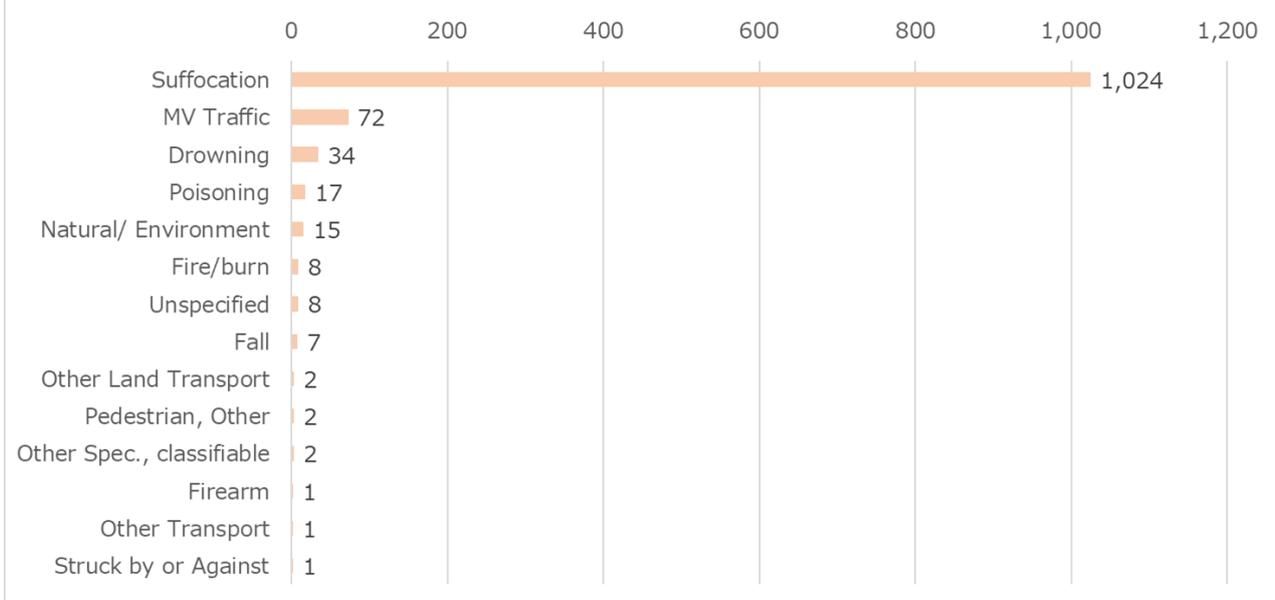
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210702/k10013112201000.html>

<sup>5</sup> 読売新聞 Yomi Dr. 「1か月女児を抱いたまま母親が運転 帰宅したら反応なく18時間後死亡…スリング内での窒息を防ぐには」（2021年1月19日）<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20210113-OYTET50002/>

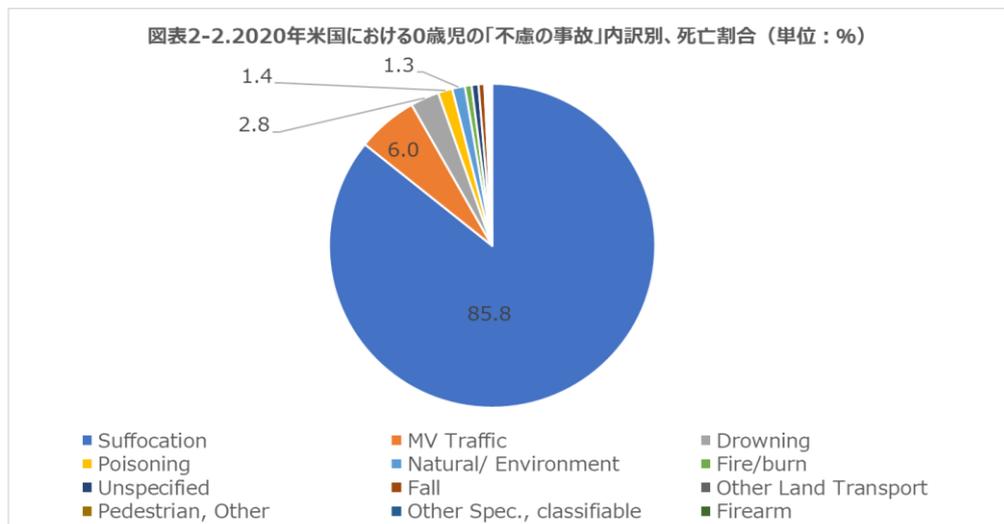
<sup>6</sup> 朝日新聞「東大でもテニスを夢語った孫が… ラフティング事故遺族の訴え」（2023年5月10日）

<sup>7</sup> 産経新聞「10 第の薬物まん延大麻の危険性甘くみるな」（2020年8月5日）

図表2-1.2020年米国における0歳児の「不慮の事故」内訳別、死亡者数（単位：人）



図表2-2.2020年米国における0歳児の「不慮の事故」内訳別、死亡割合（単位：％）



資料 1) CDC, Fatal Injury Trends, Data and Statistics (WISQARS), Leading Causes of Death and Injury, Leading Causes of Death Reports-2020. <https://www.cdc.gov/injury/wisqars/LeadingCauses.html>

資料 2) WHO「ICD-10 ver.10」<https://icd.who.int/browse10/2019/en>

資料 3) 厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」、「ア. ICD-10 (2013年版) 準拠 基本分類表」、第20章「傷病及び死因の外因」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippeit/>

注 1) 資料 1) の CDC が傷病統計レポートで用いている疾病分類について、基となる ICD-10 (国際疾病分類) の資料 2) の番号にて該当疾病について確認し、厚生労働省が準拠する「ICD-10(2013年版) 準拠、基本分類表」資料 3) より日本語死因名との照合を実施した上で、筆者が作成した。

注 2) 尚、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (以下「ICD」と略)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関 (WHO) が作成した分類である。

日本では、統計法 (平成19年法律第53号。以下「法」という。) 第28条第1項の規定に基づき、法第2条第9項に規定する統計基準として、ICDに準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示している。現在、国内で使用している分類は、ICD-10 (2013年版) に準拠しており、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。

### 3-2 | 2020年米国の1歳-4歳における不慮の事故内訳

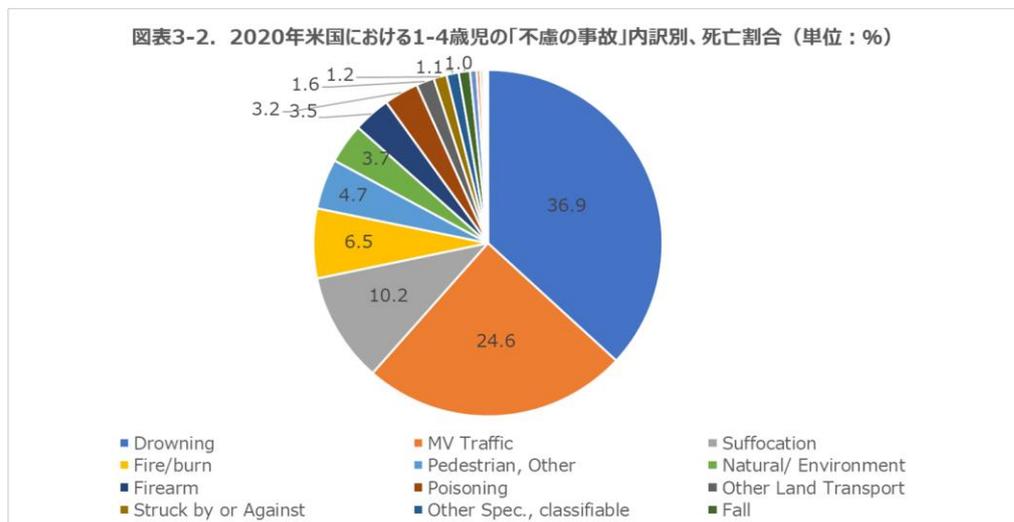
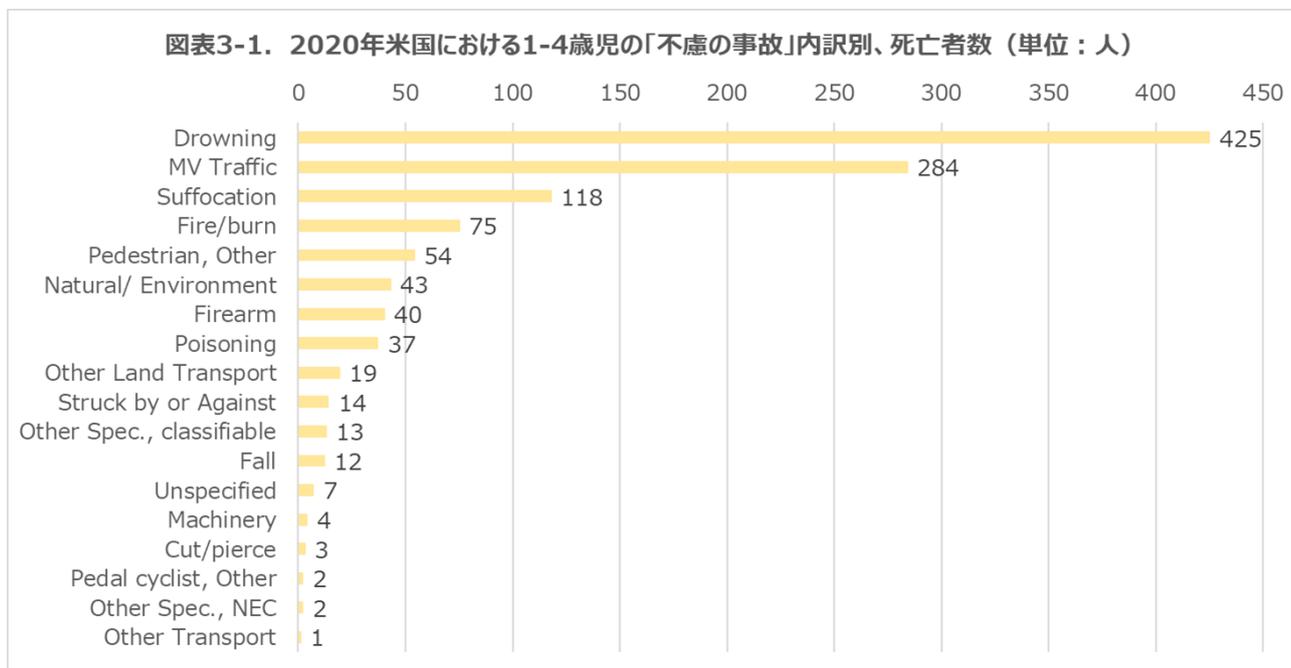
続いて、2020年米国における1~4歳の不慮の事故(傷害)の内訳をみると、第1位は「Drowning: その他の溺死及び溺水」であり、1年間の死亡者数が425人(36.9%)であった。次に「MV Traffic: 交通事故により受傷したオートバイ乗員やバス乗員」が286人(24.6%)、続いて、「Suffocation: その他の不慮の窒息」が118人(10.2%)であった。

図表1の日本の1歳から4歳の不慮の事故における内訳にはバラつきが認められるが、米国の1歳

から4歳の不慮の事故(傷害)の内訳も、0歳児ほど死亡者数に差が認められる特異的な死因はない。

しかし、溺死の死亡者数が最も多いことから、0歳児よりも行動範囲が拡大するものの安全配慮の知識や判断、それをコントロールする身体能力が未熟なことから、窒息よりも溺死での死亡が多いことが推察される。

1歳から4歳をもつ保護者や周りの大人は、日常生活での水回りの環境や、レジャー・旅行先での行動範囲について特に注意を払う必要があると言える。



資料1) CDC, Fatal Injury Trends, Data and Statistics (WISQARS), Leading Causes of Death and Injury, Leading Causes of Death Reports-2020. <https://www.cdc.gov/injury/wisqars/LeadingCauses.html>

資料2) WHO「ICD-10 ver.10」<https://icd.who.int/browse10/2019/en>

資料3) 厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」、「ア. ICD-10(2013年版) 準拠 基本分類表」、第20章「傷病及び死因の外因」  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippeij/>

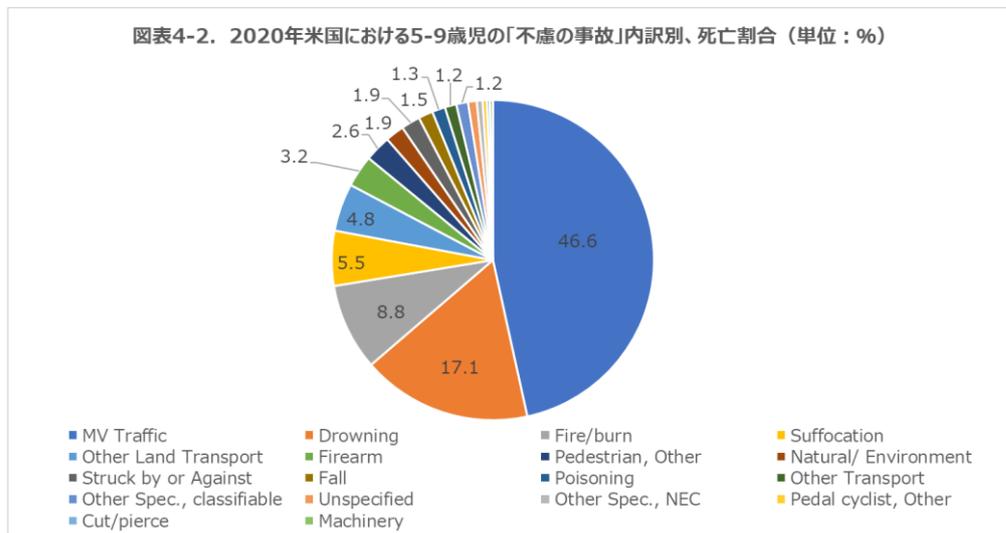
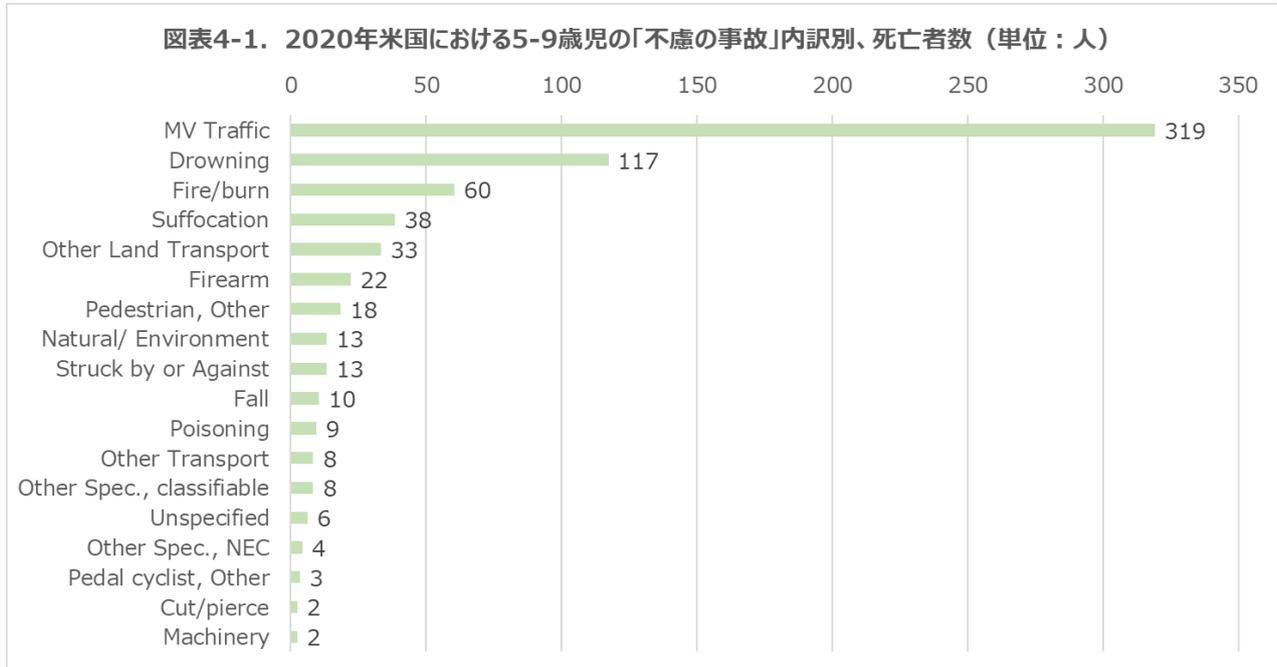
注1) 資料1のCDCが傷病統計レポートで用いている疾病分類について、基となるICD-10(国際疾病分類)の資料2の番号にて該当疾病について確認し、厚生労働省が準拠する「ICD-10(2013年版)準拠、基本分類表」資料3より日本語死因名との照合を実施した上で、筆者が作成した。

注2) 尚、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類: International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems(以下「ICD」と略)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関(WHO)が作成した分類である。

日本では、統計法(平成19年法律第53号。以下「法」という。)第28条第1項の規定に基づき、法第2条第9項に規定する統計基準として、ICDに準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示している。現在、国内で使用している分類は、ICD-10(2013年版)に準拠しており、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。

### 3-3 | 2020年米国の5歳-9歳における不慮の事故内訳

続いて、2020年米国における5歳-9歳の不慮の事故(傷害)の内訳をみると、第1位は「MV Traffic: 交通事故により受傷したオートバイ乗員やバス乗員」であり、1年間の死亡者数が319人(46.6%)であった。次に、「Drowning:その他の溺死及び溺水」が117人(17.1%)、続いて、「Fire/burn:煙、火及び火災への曝露」が60人(8.8%)であった。



資料 1) CDC, Fatal Injury Trends, Data and Statistics (WISQARS), Leading Causes of Death and Injury, Leading Causes of Death Reports-2020.

<https://www.cdc.gov/injury/wisqars/LeadingCauses.html>

資料 2) WHO ICD-10 ver.10 <https://icd.who.int/browse10/2019/en>

資料 3) 厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」,「ア. ICD-10(2013年版) 準拠 基本分類表」,第20章「傷病及び死因の外因」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippeij/>

注 1) 資料 1) の CDC が傷病統計レポートで用いている疾病分類について、基となる ICD-10 (国際疾病分類) の資料 2) の番号にて該当疾病について確認し、厚生労働省が準拠する「ICD-10(2013年版) 準拠、基本分類表」資料 3) より日本語死因名との照合を実施した上で、筆者が作成した。

注 2) 尚、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類: International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (以下「ICD」と略)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関 (WHO) が作成した分類である。

日本では、統計法 (平成19年法律第53号。以下「法」という。) 第28条第1項の規定に基づき、法第2条第9項に規定する統計基準として、ICDに準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示している。現在、国内で使用している分類は、ICD-10 (2013年版) に準拠しており、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。

日本の5-9歳の年齢層では、他の年齢階級と比べて最も不慮の事故による死亡者数が減少する年齢層であることが図表1にも示されている。発育発達が未熟な0歳児から4歳児と比べても、身体的・精神的な成長が認められる年齢階級となることから、ある程度危険な状況を判断し、対処行動をとろうと取り組むことができる発達段階にあることや、幼稚園や小学校において社会生活を学ぶことで、交通ルールや安全についての知識の習得機会があることが全体的な死亡者数の減少へ影響していると推察される。

しかし、この年齢階級において、火災などによる負傷要因の順位が上昇していることから、一人で火を取り扱うことや、火災訓練で煙を吸い込まない逃げ方を習得する必要はありそうである。教育機関のみならず、家庭においても避難訓練などを低学年児童と取り組むことは有益な対策となるであろう。

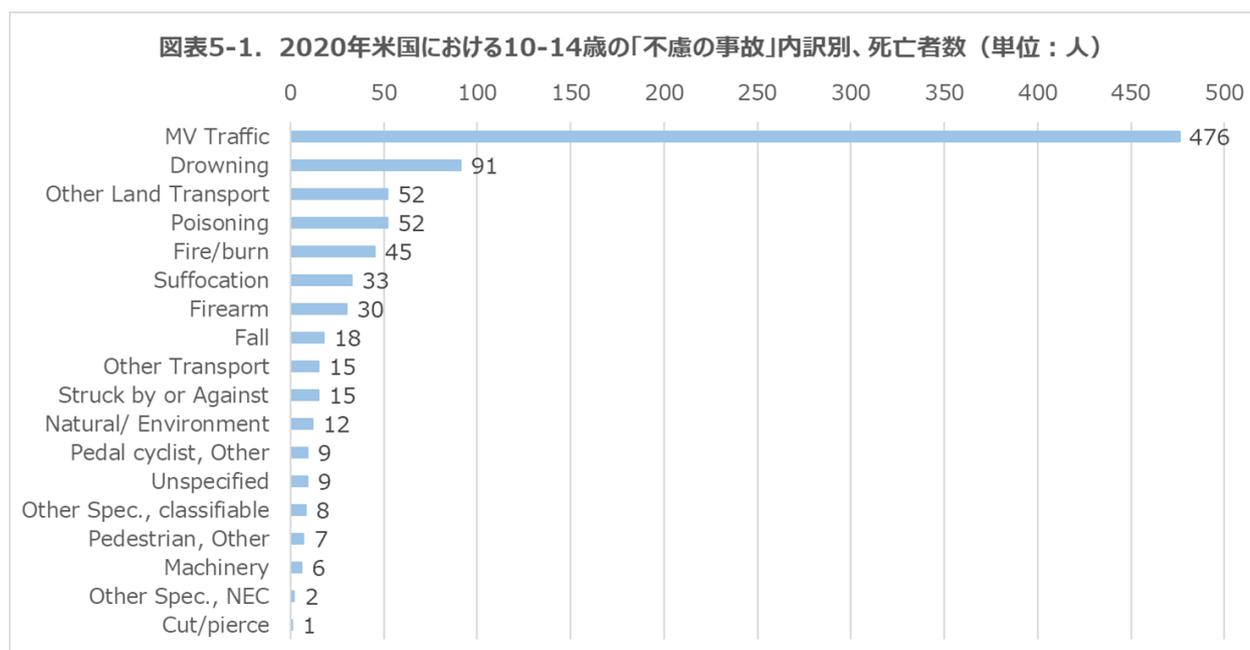
### 3-4 | 2020年米国の10歳-14歳における不慮の事故内訳

続いて、2020年米国における10~14歳の不慮の事故(傷害)の内訳をみると、第1位は「MV Traffic: 交通事故により受傷したオートバイ乗員やバス乗員」であり、1年間の死亡者数が476人(54.0%)であった。

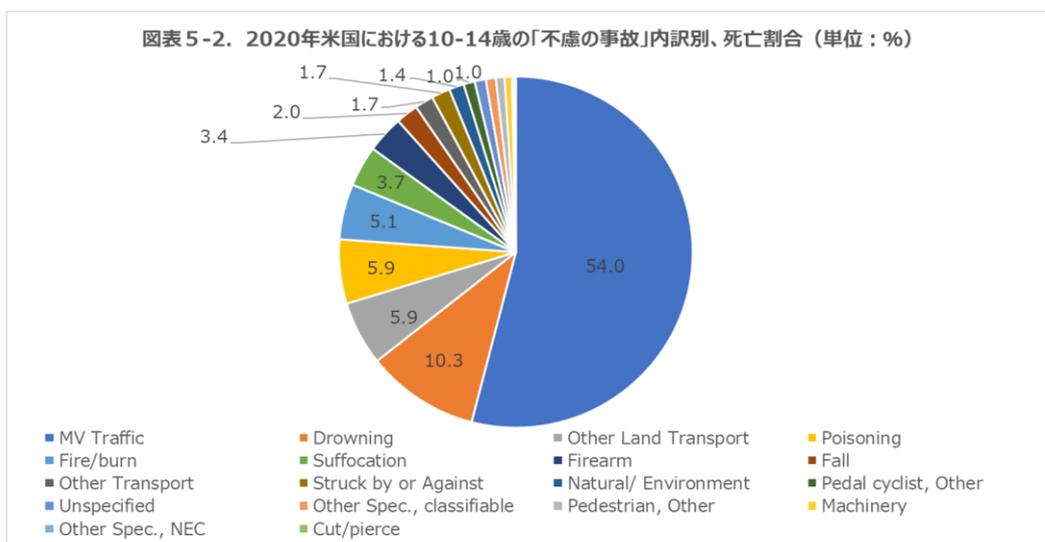
次は、「Drowning :その他の溺死及び溺水」で死亡数は91人(10.3%)、続いて、「Other Land Transport :その他陸上交通事故」の死亡数が52人(5.9%)であった。

日本の10~14歳では死因にばらつきがあるものの、溺死による死亡者数が最も多かったが、米国の10~14歳では、第1位と第3位に交通事故がランクインしていることが特徴的である。圧倒的に、車とバイク等士での事故による負傷が多いことに加え、その他の陸上交通事故である、バスや鉄道などの公共交通機関での負傷がランク上昇していることが分かる。

10歳~14歳では、教育機関への通学や日常生活においての移手段が幅広くなることにより、交通事故のリスクが増大するものと推察される。



図表 5-2. 2020年米国における10-14歳の「不慮の事故」内訳別、死亡割合（単位：％）



資料 1) CDC, Fatal Injury Trends, Data and Statistics (WISQARS), Leading Causes of Death and Injury, Leading Causes of Death Reports-2020.

<https://www.cdc.gov/injury/wisqars/LeadingCauses.html>

資料 2) WHO「ICD-10 ver.10」<https://icd.who.int/browse10/2019/en>

資料 3) 厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」、「ア. ICD-10（2013年版）準拠 基本分類表」、第20章「傷病及び死因の外因」  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippeit/>

注 1) 資料 1) の CDC が傷病統計レポートで用いている疾病分類について、基となる ICD-10（国際疾病分類）の資料 2) の番号にて該当疾病について確認し、厚生労働省が準拠する「ICD-10(2013年版)準拠、基本分類表」資料 3) より日本語死因名との照合を実施した上で、筆者が作成した。

注 2) 尚、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（以下「ICD」と略）」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類である。

日本では、統計法（平成19年法律第53号。以下「法」という。）第28条第1項の規定に基づき、法第2条第9項に規定する統計基準として、ICDに準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示している。現在、国内で使用している分類は、ICD-10（2013年版）に準拠しており、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。

### 3-5 | 2020年米国の15歳-24歳における不慮の事故内訳

最後に、2020年米国における15～24歳の不慮の事故（傷害）の内訳をみると、第1位は「MV Traffic: 交通事故により受傷したオートバイ乗員やバス乗員」であり、1年間の死亡者数が6,741人（44.6%）であった。

次は、「Poisoning: 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露」の死亡数が6,664人（44.1%）、続いて、「Drowning: その他の溺死及び溺水」で死亡数は593人（3.9%）であった。

交通事故と中毒が各4割強を占めていることから、米国の15歳から24歳の年齢層の不慮の事故（傷害）では、交通事故と中毒が特徴的であると言える。

この年齢区分は、日本では15歳～29歳と米国よりも広い年齢階級で区分されていたが、この年齢階級でも「有害物質による不慮の中毒」の死亡者数が最も多い結果となっており、日米共通の不慮の事故による死因と言える。

この年齢層では、学生生活での通学や、社会生活での通勤・移動において、交通事故のリスクが上昇することは想像に容易いが、実は我々人間は日常生活の中で常に有害物質に接しており、その曝露量×時間により蓄積されることでこの年齢層になって人体への影響が出現するのである。

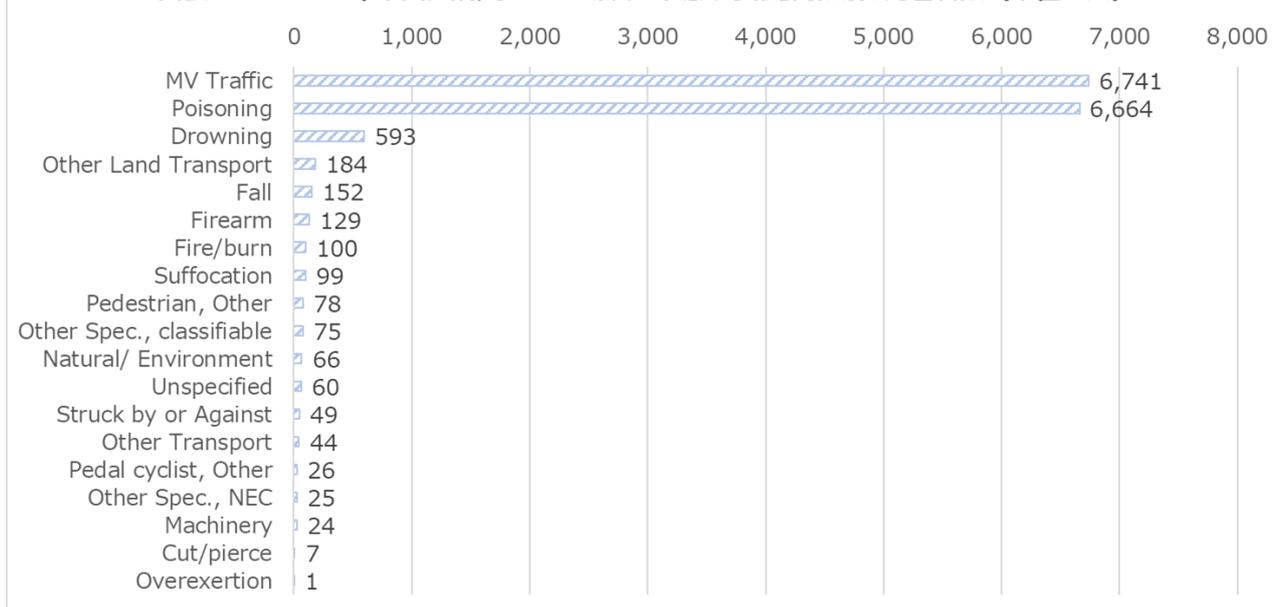
例年公表されている厚生労働省の家庭用品に係る健康被害の取りまとめでは<sup>8</sup>、ピアスやネックレス製品、除菌剤による皮膚障害や吸入事故が報告されている。新型コロナウイルス感染症への消毒剤として注目を浴びた次亜塩素酸ナトリウム溶液も希釈濃度を間違える事例や、次亜塩素水と間違えることで嘔吐や様々な人体影響が出現することが報告されている。

<sup>8</sup> 厚生労働省「2021年度 家庭用品に係る健康被害の年次とりまとめ報告」

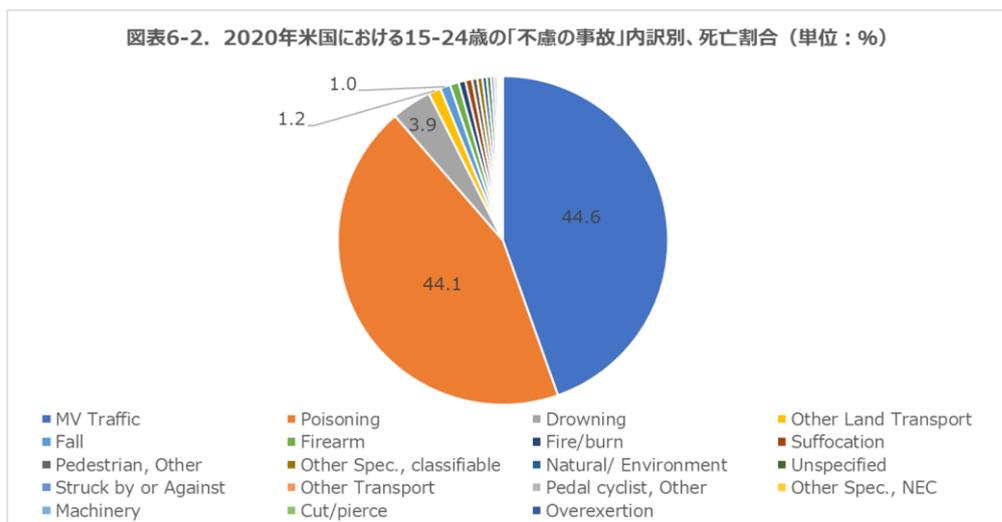
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000193024\\_00012.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000193024_00012.html)

特に、小柄な子どもが有害物質に曝露すると、大人と比較して人体影響を受けやすいという特徴を持つ。年齢が高くなると触れる機会が多くなる有害物質への知識を持って、日頃より留意してほしい。

図表6-1. 2020年米国における15-24歳の「不慮の事故」内識別、死亡者数（単位：人）



図表6-2. 2020年米国における15-24歳の「不慮の事故」内識別、死亡割合（単位：%）



資料 1) CDC, Fatal Injury Trends, Data and Statistics (WISQARS), Leading Causes of Death and Injury, Leading Causes of Death Reports-2020. <https://www.cdc.gov/injury/wisqars/LeadingCauses.html>

資料 2) WHO ICD-10 ver.10 <https://icd.who.int/browse10/2019/en>

資料 3) 厚生労働省「疾病、傷害及び死因の統計分類」、「ア. ICD-10 (2013年版) 準拠 基本分類表」、第20章「傷病及び死因の外因」  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/>

注 1) 資料 1 の CDC が傷病統計レポートで用いている疾病分類について、基となる ICD-10 (国際疾病分類) の資料 2 の番号にて該当疾病について確認し、厚生労働省が準拠する「ICD-10 (2013年版) 準拠、基本分類表」資料 3 より日本語死因名との照合を実施した上で、筆者が作成した。

注 2) 尚、「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (以下「ICD」と略)」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関 (WHO) が作成した分類である。  
日本では、統計法 (平成19年法律第53号。以下「法」という。) 第28条第1項の規定に基づき、法第2条第9項に規定する統計基準として、ICDに準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示している。現在、国内で使用している分類は、ICD-10 (2013年版) に準拠しており、統計法に基づく統計調査に使用されるほか、医学的分類として医療機関における診療録の管理等に活用されている。

#### 4—まとめ

本稿では、「不慮の事故 (傷害)」の内訳に関する統計データを用いて、日米で比較し分析した。

その結果、人口動態統計から捉える日本の不慮の事故の特徴として、0歳児では窒息、15歳以上

で溺死による死亡や有害物質による暴露が死因要因として特徴的であることが明らかとなった。

また、CDC が公表する傷病レポートより、2020年米国の不慮の事故（傷害）の特徴として、0歳では（日本同様）窒息による死亡数が最も多く、1－4歳では溺死、5歳以上では交通事故による負傷が致命傷となる傾向が明らかとなった。

日米ともに、発育発達が未熟な0歳児では窒息に留意する必要があることは共通していた。また、行動範囲が拡大するものの、リスク回避や安全を保つことが困難である1歳－4歳の年齢層では溺死に結びつく可能性のある水回りに留意する必要があることが明らかとなった。

さらに、社会生活に伴う移動が増加する5歳以上の年齢層では、交通事故に留意する必要があることが示唆される結果となった。

子どもを持つ保護者や周りの大人は、本稿を参考にしながら子どもの発達段階に伴う不慮の事故に留意していただきたい。引き続き、子どもの健康や安全に関する情報発信に努める。

(資料) ICD-10 に準拠した日米における不慮の事故(傷害)内訳対照表(筆者作成)

0歳

| Cause of Death            | ICD-10  | 不慮の事故(傷害)内容             |
|---------------------------|---------|-------------------------|
| Suffocation               | W75-W84 | その他の不慮の窒息               |
| MV Traffic                | V20-V79 | 交通事故により受傷したオートバイ乗員～バス乗員 |
| Drowning                  | W65-W74 | 不慮の溺死及び溺水               |
| Poisoning                 | X40-X49 | 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露  |
| Natural/ Environment      | X30-X39 | 自然の力への曝露                |
| Fire/burn                 | X00-X09 | 煙、火及び火災への曝露             |
| Unspecified               | —       | 不明                      |
| Fall                      | W00-W19 | 転倒・転落・墜落                |
| Other Land Transport      | V80-V89 | その他の陸上交通事故              |
| Pedestrian, Other         | V01-V09 | 交通事故により受傷した歩行者          |
| Other Spec., classifiable | —       | その他(分類可)                |
| Firearm                   | X93-X95 | 銃器による加害に基づく傷害及び死亡       |
| Other Transport           | V98-V99 | その他及び詳細不明の交通事故          |
| Struck by or Against      | W20-W22 | 投げられた物体との衝突及び打撲         |

1-4歳

| Cause of Death            | ICD-10  | 不慮の事故(傷害)内容             |
|---------------------------|---------|-------------------------|
| Drowning                  | W65-W74 | 不慮の溺死及び溺水               |
| MV Traffic                | V20-V79 | 交通事故により受傷したオートバイ乗員～バス乗員 |
| Suffocation               | W75-W84 | その他の不慮の窒息               |
| Fire/burn                 | X00-X09 | 煙、火及び火災への曝露             |
| Pedestrian, Other         | V01-V09 | 交通事故により受傷した歩行者          |
| Natural/ Environment      | X30-X39 | 自然の力への曝露                |
| Firearm                   | X93-X95 | 銃器による加害に基づく傷害及び死亡       |
| Poisoning                 | X40-X49 | 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露  |
| Other Land Transport      | V80-V89 | その他の陸上交通事故              |
| Struck by or Against      | W20-W22 | 投げられた物体との衝突及び打撲         |
| Other Spec., classifiable | —       | その他(分類可)                |
| Fall                      | W00-W19 | 転倒・転落・墜落                |
| Unspecified               | —       | 不明                      |
| Machinery                 | W29-W31 | 機械との接触                  |
| Cut/pierce                | X99     | 営利な物体による加害に基づく障害及び死亡    |
| Pedal cyclist, Other      | V10-V19 | 交通事故による受傷した自転車乗員        |
| Other Spec., NEC          | —       | その他(分類不可)               |
| Other Transport           | V98-V99 | その他及び詳細不明の交通事故          |

5-9歳

| Cause of Death            | ICD-10  | 不慮の事故(傷害)内容             |
|---------------------------|---------|-------------------------|
| MV Traffic                | V20-V79 | 交通事故により受傷したオートバイ乗員～バス乗員 |
| Drowning                  | W65-W74 | 不慮の溺死及び溺水               |
| Fire/burn                 | X00-X09 | 煙、火及び火災への曝露             |
| Suffocation               | W75-W84 | その他の不慮の窒息               |
| Other Land Transport      | V80-V89 | その他の陸上交通事故              |
| Firearm                   | X93-X95 | 銃器による加害に基づく傷害及び死亡       |
| Pedestrian, Other         | V01-V09 | 交通事故により受傷した歩行者          |
| Natural/ Environment      | X30-X39 | 自然の力への曝露                |
| Struck by or Against      | W20-W22 | 投げられた物体との衝突及び打撲         |
| Fall                      | W00-W19 | 転倒・転落・墜落                |
| Poisoning                 | X40-X49 | 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露  |
| Other Transport           | V98-V99 | その他及び詳細不明の交通事故          |
| Other Spec., classifiable | —       | その他(分類可)                |
| Unspecified               | —       | 不明                      |
| Other Spec., NEC          | —       | その他(分類不可)               |
| Pedal cyclist, Other      | V10-V19 | 交通事故による受傷した自転車乗員        |
| Cut/pierce                | X99     | 営利な物体による加害に基づく障害及び死亡    |
| Machinery                 | W29-W31 | 機械との接触                  |

10-14歳

| Cause of Death            | ICD-10  | 不慮の事故(傷害)内容             |
|---------------------------|---------|-------------------------|
| MV Traffic                | V20-V79 | 交通事故により受傷したオートバイ乗員～バス乗員 |
| Drowning                  | W65-W74 | 不慮の溺死及び溺水               |
| Other Land Transport      | V80-V89 | その他の陸上交通事故              |
| Poisoning                 | X40-X49 | 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露  |
| Fire/burn                 | X00-X09 | 煙、火及び火災への曝露             |
| Suffocation               | W75-W84 | その他の不慮の窒息               |
| Firearm                   | X93-X95 | 銃器による加害に基づく傷害及び死亡       |
| Fall                      | W00-W19 | 転倒・転落・墜落                |
| Other Transport           | V98-V99 | その他及び詳細不明の交通事故          |
| Struck by or Against      | W20-W22 | 投げられた物体との衝突及び打撲         |
| Natural/ Environment      | X30-X39 | 自然の力への曝露                |
| Pedal cyclist, Other      | V10-V19 | 交通事故による受傷した自転車乗員        |
| Unspecified               | —       | 不明                      |
| Other Spec., classifiable | —       | その他(分類可)                |
| Pedestrian, Other         | V01-V09 | 交通事故により受傷した歩行者          |
| Machinery                 | W29-W31 | 機械との接触                  |
| Other Spec., NEC          | —       | その他(分類不可)               |
| Cut/pierce                | X99     | 営利な物体による加害に基づく障害及び死亡    |

15-24歳

| Cause of Death            | ICD-10  | 不慮の事故(傷害)内容             |
|---------------------------|---------|-------------------------|
| MV Traffic                | V20-V79 | 交通事故により受傷したオートバイ乗員～バス乗員 |
| Poisoning                 | X40-X49 | 有害物質による不慮に中毒及び有害物質への暴露  |
| Drowning                  | W65-W74 | 不慮の溺死及び溺水               |
| Other Land Transport      | V80-V89 | その他の陸上交通事故              |
| Fall                      | W00-W19 | 転倒・転落・墜落                |
| Firearm                   | X93-X95 | 銃器による加害に基づく傷害及び死亡       |
| Fire/burn                 | X00-X09 | 煙、火及び火災への曝露             |
| Suffocation               | W75-W84 | その他の不慮の窒息               |
| Pedestrian, Other         | V01-V09 | 交通事故により受傷した歩行者          |
| Other Spec., classifiable | —       | その他(分類可)                |
| Natural/ Environment      | X30-X39 | 自然の力への曝露                |
| Unspecified               | —       | 不明                      |
| Struck by or Against      | W20-W22 | 投げられた物体との衝突及び打撲         |
| Other Transport           | V98-V99 | その他及び詳細不明の交通事故          |
| Pedal cyclist, Other      | V10-V19 | 交通事故による受傷した自転車乗員        |
| Other Spec., NEC          | —       | その他(分類不可)               |
| Machinery                 | W29-W31 | 機械との接触                  |
| Cut/pierce                | X99     | 営利な物体による加害に基づく障害及び死亡    |
| Overexertion              | X50     | 無理な頑張り及び激しい運動または反復性の運動  |